

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1194600365		
法人名	株式会社ワイグッドケア		
事業所名	グループホーム五感の里深谷		
所在地	埼玉県深谷市柏合601-1		
自己評価作成日	令和6年1月10日	評価結果市町村受理日	令和6年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和6年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

のどかなネギ畑に囲まれた静かな場所に位置し、平屋造りでバリアフリー、東西ユニットを行き来出来る入居者様がゆったりと安心して生活できる住環境が整っています。日課としている近隣の散歩の際には、近隣住民の方と挨拶を交わり、お庭の草花のお話で盛り上がり、地域に溶け込んでいます。1ユニット9名の少人数で家庭的な雰囲気の中、今までのライフスタイルや価値観を大切に可能な限り自立した日常生活を送ることが出来るように、個別性の高いケアを目指しております。医療面では、提携先医療機関と24時間体制の医療連携を行っています。近年では、施設での看取りケアを希望するご家族が増え、提携先医療機関のご協力のもと行ってまいりました。職員とご家族に見守られながら、心穏やかに最期を過ごして頂きました。これからも、入居者様をご自分らしく、ゆったりと安心して生活出来るようサポートしてまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・「住み慣れた地域で尊厳のある支援を行う」の理念の基、出来ることは行っていただき、出来ないことは支援し、被害妄想の訴えも否定をせず、なぜそうになったのか、どのように対応していくかを話し合い、地域と共に最期まで暮らしていただけることを支援する事業所となっている。
 ・運営推進会議は、多方面の参加を得て対面での会議が再開され、利用者や事業所の状況報告が行われると共に、久しぶりに事業所の見学をしていただくことで様々な意見をいただき、運営に活かされている。
 ・目標達成計画については、利用者が他人に知られたくないことは知られないように、また、個人が特定されないように、拒否の場合は無理強いをしないように、注意が払われており、年1回法人主催の「権利擁護」の研修も行われていることと、消防署の立ち会いを得て年2回の避難訓練と専門業者による設備点検が行われており、災害対応マニュアルや備蓄も供えられていることから、目標の達成がうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員採用時に理念に基づいたケアが実践できるように説明している。毎朝の朝礼開始時に理念を唱和している。理念は職員の目につく場所に掲示している。日頃から、理念に基づいたケアが行われているか、職員で話し合いの場を設けて、ケアの見直しを行っている。	「住み慣れた地域で尊厳のある支援を行う」の理念の基、出来ることは行っていただき、出来ないことは支援し、被害妄想の訴えも否定をせず、なぜそのようになったのか、どのように対応していくかを話し合い、地域と共に最期まで暮らしていただける事業所となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当施設は、のどかな田畑の中に位置している。入居者様との散歩時は、近隣住民と挨拶を交わし、会話を楽しむことがある。自治会に加入し地域の一員として積極的に関わりが持てるように心掛けている。	散歩の折に挨拶を交わしたり、神社の初詣や岡部の藤棚見学、本に興味をお持ちの利用者のために図書館に行くことなど、コロナ禍でも地域の方々から理解が得やすい事業所作りが行われ、繋がりが切れないように努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、昨年は、職場体験の受け入れを行っていない。施設見学については、昨年5月以降受け入れており、運営推進会議等を通じて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	およそ2ヶ月毎にホームの活動状況を記載した、議事録を各委員に配布して、会議への参加を要請している。参加出来ない方には、電話等で、意見や要望を吸い上げている。開催後は、報告書を行政に提出している。	運営推進会議は家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター等の参加を得て、対面での会議が再開され、利用者や事業所の状況報告が行われると共に、事業所を見学をして頂くことで様々な意見をいただき、運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営指導、運営推進会議や、更新手続き等で、相談窓口を訪問した際に情報交換をしている。	地域の情報や市の取り組み、研修案内等を伝えてもらったり、各種の手続きなどで協力関係が作られている。運営指導があり、誘導灯のランプや災害通報装置のバッテリーについて交換の指摘があり、改善をされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束に該当する行為がないか、職員間で確認している。普段から、入居者様の行動を抑制せずに自由な暮らしが出来るようにサポートしている。朝の9時～夕方18時まで、玄関の施錠はしておらず、開放感を演出している。	処遇改善加算を算定していることから、3か月に1回、法人主催の身体拘束関係の研修が実施され周知が図られている。エアマット使用の利用者で転落防止の為家族の承諾のもとサイドレールを取り付ける場合があるが、他に拘束を必要とする利用者はおられない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社員研修や個別の研修で、定期的に高齢者虐待に該当する事例を学んでいる。虐待防止委員会の開催も予定している。日頃のケアや声掛けに不適切な対応がないか見直しを行い、虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社員研修や、個別の研修で権利擁護に関する制度を学んでいる。現在入居者様1名が成年後見制度を利用、2名が任意後見制度を利用中。職員に周知し、制度を学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、ご家族に契約書や重要事項説明書等を用いて説明している。ご本人は同席しないケースが多い。ご本人への説明は、日常生活の中で、行っている。質問や疑問にお答えし、理解を頂いた上での契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見や要望は、日常生活の会話の中から、発信されることが多く、それについて管理者を含め職員で、話し合いの場を設けている。面会時にご家族の要望を確認しつつ、入居者様の思いをご家族に伝えている。	利用者とは日頃の支援を通じて、家族には利用者の状況報告が毎月送付されていることと、コロナ禍による面会制限が解除されたことで、来訪の折に意見や要望を汲み取り、日々のサービスに反映され、家族の安心感に繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や思いを発言しやすいような環境づくりをしている。電話でのヘルプラインも整備されている。ユニットでのミーティングや、個別での面談を通して職員の希望や提案等が出来るだけ反映出来るよう努力している。	管理者が現場に入り、随時機会を捉えて意見や提案を聴き取ることで、話易い環境が作られており、ユニット会議は必要に応じて開催されている。ヘルプラインと称し、職員が本社の担当者へ直接電話ができる仕組みも設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別の評価シートを用いて個別の面談を行い、評価査定を行っている。その際に職員の意見や要望を吸い上げている。スキルアップのための資格取得支援も行っている。貸付金制度も整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、個別研修、リーダー研修、管理者研修に参加して、介護知識とケアの質の向上に努めている。研修後に感想を聞き、他の職員に研修内容の共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の影響で同業者との交流の場は、あまりなかったが、入居相談員を通して情報共有は行っている。今後は、同業者と交流する機会を設け、相互訪問活動を通じて、サービスの質の向上に取り組みたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設見学を提案し、施設の雰囲気を感じて頂けるようにしている。家族やご本人とお話しをしたり、現在入居中の人との会話を交えて、心配事やご要望を受け止め、安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と面談を行い、現在直面している問題等を傾聴し、要望等を確認している。初期の面会の際に、ご家族の思いや不安事を気軽に話せるような雰囲気づくりを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人のアセスメントを行い、ご家族の要望を踏まえ、適切なサービス支援を提供出来るよう対応している。又、入居者との日常の会話から必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者それぞれ能力に応じて、掃除や洗濯干し、洗濯たたみ、食事の下ごしらえ、食器洗い等の家事を職員と一緒にさせて頂いている。無理強いせず、作業終了後には、労いの言葉をおかけしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や書面等でホームの普段の様子を伝えご家族と情報を共有するように努めている。ご家族で出来ることはお願いし、関わりが希薄にならぬ様連絡を取り合っている。ご家族からの手紙や花束を即座にご本人にお渡ししている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族との会話の中から情報を収集している。要望があれば、電話や手紙等で、大切な方との交流が途切れないように努めている。キーパーソン了承のもと、事前連絡前提にて面会を受け入れている。	事前の連絡が無くても、家族や親戚との面会ができるようになり、家族や親戚以外の知人や友人の面会希望者にも家族の確認を得て面会をしていただくなど、コロナ禍でも馴染みの人との関係継続に努められてきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から入居者同士の相性や関係性を把握しテーブル席の配置を工夫している。良好な関係を築けるように職員が仲介して、コミュニケーションを支援している。家事のお手伝いをして頂いた際は、必ず感謝の意を伝えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、ご家族から要望があれば相談等に対応している。介護保険上の相談であれば、担当のケアマネジャーに報告、連絡、相談を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時及び、普段の生活の会話の中で、得た情報を記録として残し、情報を共有している。家族様や入居者の意向や思いをくみ取り、ケアプランを作成している。	利用者の日頃の様子を観察し「この人はどのような時に笑ったりするのか」や「立ち上がり行動を見てトイレに行きたいのでは」などを職員が共有して利用者の意向を汲み取ったり、家族から過去の生活歴や職歴等を聴き参考にするなどして、本人本位の支援が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	『課題分析標準23項目』を活用し、個々の情報、把握に努めている。面会時やモニタリング時に聞き取りを行うなどし、サービスの向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化を記録し、観察することで状態を把握している。必要時はカンファレンスを実施している、		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者ごとに担当者を決めて、日々情報収集に努めている。ご家族の思いや要望、入居者の思い、要望の双方をくみ取り、ケアプラン作成を行っている。	利用者担当の観察を基に、計画作成者がモニタリングを行い、本人や家族の要望、かかりつけ医や看護師の意見なども得て介護計画が作成されている。また、カンファレンスにおいては、利用者個々の対応が話し合われ、介護方法に工夫が凝らされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡帳、ケース会議ノートを活用し、記録とすることで、日々の様子や問題点を情報共有している。プランの見直しができるように些細なことも記録に残すよう心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提携病院及び、かかりつけ病院通院の付添い、定期往診の受診、買い物、外出支援等、職員が臨機応変に家族様と連絡を取り合いながら柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が今まで関わってきた地域資源を把握し、今後も出来るだけ継続し、安心して暮らしていけるように支援している。地域の方々と連絡をとり、災害時等の協力を呼びかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	あねとす病院と月2回の定期往診契約を結び臨時往診、急変時の24時間医療連携体制を構築している。病気の初期症状、健康相談等、病院の看護師に連絡し、医師の指示を仰いでいる。病院協力のもと看取りケアを行い、専門医療機関への紹介支援も行っている。	入居時に医療機関選択の説明が行われ、本人や家族の希望を尊重した選択がなされている。協力医療機関とは24時間医療連携の構築がなされており専門医への紹介が行われ、必要に応じて職員による通院の付き添いも行われるなど、適切な受診支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常生活の中で体調の変化に気づき、施設看護師との情報共有にて、指示、助言を受け適切な看護が受けられるように支援している。急変時には、24時間体制で、提携病院と連絡をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から入居者の状態把握に努め、入院時には、必要な情報が速やかに提供出来る体制づくりを心掛けている。退院時には、看護サマリーを病院に依頼し、退院後の生活に支障が生じないようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、重度化した場合や終末期にホームで出来ることを事前に説明している。また、ご家族、及びご本人からの要望があれば、あねとす病院協力のもと看取りケアを行っている。随時、看取りの研修を行っている。	入居時に指針に基づき終末期に事業所ができる事の説明が行われ、重篤化した場合は、医師や看護師の意見も得て家族との話し合いを重ね、最適と思われる対応が行われている。また、法人主催の看取り研修が行われており、職員は事例等を基に学びの機会を得られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時や事故が生じた際、速やかに施設看護師やかかりつけ病院に繋がれるように、連絡先や連絡方法の情報を共有している。研修を通して、応急手当や初期対応を学んでいる。救急箱の中身を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の協力を得て様々な状況を想定して通報訓練、防災訓練を実施している。定期的に専門業者による設備点検を実施している。飲料水や食料品を備蓄している。	感染予防のため、地域の方々の参加は中止されているが、消防署の立ち会いを得て年2回の避難訓練と専門業者による設備点検が行われており、災害対応マニュアルや備蓄も備えられています。今後、コロナ禍の終息を見定め、地域との協力の再開の計画を持たれている。	年2回の避難訓練と専門業者による設備点検が行われており、災害対応マニュアルや備蓄も備えられています。災害時は、予期せぬことが生じることも考えられます。訓練の継続と共に、地域との協力の再開が期待されます。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護に関しては、入居時に書面にてご家族に説明し同意を頂いている。個々の入居者の人格を尊重し親しみやすい声掛けを行い安心して何でも言って頂けるような雰囲気作りを心掛けている。	利用者が他人に知られたくないことは知られないように、職員同士の会話の場合は個人が特定されないように、拒否の場合は無理強いをしないように注意が払われている。また、年1回法人主催の「権利擁護」の研修の資料をもとにレポート提出の形式で行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思いや希望を尊重し、傾聴を心掛け、自己決定を大事にしている。普段から自己決定出来るような生活支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	入居者の表情や様子を見ながらご本人のペースを乱さぬように声掛けを行っている。各入居者の状態に応じて、静養の時間を設けたりしている。レクリエーションや体操への参加の可否も本人の意思決定を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活歴、ご本人好みを尊重し清潔を心掛け、季節や場所に適した身だしなみを支援している。ご家族との外出時には、ご家族の意向を取り入れ、本人に説明している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前の口腔体操で食事が安全に美味しく食べられるよう工夫している。入居者には、野菜の皮むき、簡単な調理、盛り付け等をお願いしている。食後の後片付けも出来る方には、お願いしている。	食材業者の献立とレシピに基づいた職員調理の食事が提供され、イベントなどの折には、職員が献立を考えた行事食や季節食を楽しませ、利用者の希望により、思い出の料理や刺身の提供も行われている。また、外出の緩和により、家族と外食を楽しまれる利用者もおられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲食が進まない入居者に対しては、状況を確認しながら、優しく声をかけつつ、時間をかけて食べて頂くよう支援している。ご家族が持参された飲料や栄養補助食品を随時提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医と連携し、歯科医指導のもと毎食後に口腔ケアを行なっている。ご自分での歯磨き後は、本人の同意を得て、口腔内確認及び、仕上げ磨きを実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個人の排泄パターンを把握し声をかけ、トイレの案内をしている。介助を必要としている入居者も出来るだけトイレでの排泄が出来るように安全を考慮し二人対応で行うことがある。	自立支援を基本に利用者の希望と能力が把握され、立位が取れる方は日中はトイレでの排泄が支援され、夜間は各自の状況に応じた対応が行われている。失禁を予防するための骨盤底筋力体操を継続し、現状維持に効果が見える利用者も見受けられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握し目標を設定している。好みに合わせた乳製品、飲料を提供し、水分摂取を促している。体操やお散歩への参加を促し、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各入居者の好みの湯の温度やご自分で洗える箇所を把握し、ご自分で出来ることはして頂いている。入浴剤や季節のゆず湯を設けたりして、リラックス気分をもたらす、入浴を楽しめるように工夫している。入浴拒否の方への対応を職員で検討している。	利用者各人にあった入浴方法や注意点を職員間で話し合い、週2~3回の入浴が支援されている。入浴拒否の方には、タイミングや職員を変えたり、無理強いをしない対応が行われている。また、リフト浴が設置され、重度の方も湯船に浸かっていたり楽しみがある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休まれる際は、離床センサーを設置したり、ソファで休まれる際は、職員が見守りをして危険を回避している。照明や室温、寝具等に気を配っている。安眠出来るように日中の活動を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにある処方薬説明書に目を通してお薬情報の把握に努めている。薬の量や薬自体の変更があった場合は、入居者の様子観察をし、記録に残し、職員間で情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や洗濯物干し、洗濯たみ等のお手伝いを出来る方をお願いしている。お手伝い後に感謝の意をお伝えしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナやインフルエンザ、風邪にかからぬ様に注意しつつ、天気の良い日は、一日一回外に出て、近隣散歩、玄関先での外気浴や花の水やり等を行って頂いている。ご家族の協力のもと外食を楽しまれる方の支援をしている。	天候・気候が許す限り、近隣の散歩や外気浴、草花の水やりなどを楽しまれている。また、初詣や季節の花見、ドライブなども行われているが、重度化が進み行先も限定される中、車椅子の方も参加いただけるように、トイレの状況などを下見してから外出が実施されている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食や買い物等希望があれば、職員と一緒に社用車にて外出支援をしている。金銭は、ご家族よりお預かりし、事務所で管理している。残金は、入居者とご家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望があった場合は、事前にご家族に連絡を入れ、電話でお話しが出来るように支援している。又、お手紙や葉書が届いた際は、ご本人にお渡しし、返事が出来るようにお手伝いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、それぞれの入居者がくつろげる場所となるように工夫を凝らしている。季節感が感じられるような掲示物を掲げている。	書道や塗り絵等の作品、行事の写真等が掲示され、四季の変化を感じられる広く明るいリビングは、利用者が洗濯物の取り込みや食器拭きに清掃などを手伝ったり、テレビを見たり、思いおmoiの場で思いおもいに過ごすことの出来る共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物は平屋で東西に分かれており、車椅子入居者の方でも自由に行き来出来るようになっている。ソファーに座りながら、入居者同士気軽に談笑出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの家具やテレビをお持ちいただき、ご本人が居心地良く過ごして頂けるように工夫している。	それぞれの利用者のこだわりを尊重し、使い慣れた家具や日用品、思い出の品等が持ち込まれ、利用者個々の生活リズムで過ごしていただける部屋作りが行われている。また、出来る方には清掃を一緒に行っていただき、清潔に維持されている。	コロナ禍の終息を見据えて、各居室での面会が再開されると思われませんが、居室での面会が、ご家族と利用者の心安らぐ癒しの場となることが期待されます。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人一人の『出来ること』を活かして、厨房で調理に参加して頂いたり、テーブル拭きや洗濯たたみ、新聞折り等に参加して頂き、必ず感謝の意を伝えている。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム五感の里深谷

目標達成計画

作成日: 令和6年3月15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策として年2回の避難訓練を実施しているが、夜間想定訓練が出来ていない。 消防設備点検にて、消防設備の不具合箇所の指摘が存在する。	年2回のうちの1回を夜間想定として訓練を行う。 早急に消防設備の不具合箇所を改善する。	防火管理責任者と相談して避難訓練計画を立てる。 大家さんと協力して、専門業者に不具合箇所の修繕を依頼する。	12ヶ月
2	54	感染症対策の1つとして、面会室での面会を推奨してきた経緯がある。 見直しをして来なかった。	面会での感染症の感染ゼロを目指しつつ、各居室での面会の実現を可能にする。	事前連絡を前提とした面会を推奨し、各入居者と面会希望者の体調を把握する。 各職員に理解を求める。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。